

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30 - 26	小学校	算 数	算 数	1 年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	算数 110 111	しょうがく さんすう 1ねん上 しょうがく さんすう 1ねん下		

1. 編修の基本方針

—子どもたちに「**真の生きる力**」をはぐくむ算数の学び—

数学的な見方・考え方を働かせた

「わかる・できる・活かす・楽しむ」数学的活動の充実により

確かな資質・能力が育つように…

私たちはこの教科書が、そのたすけとなることを心から願って編修しました。

本教科書は、教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するため、次のような基本方針で編修しました。

基本方針

1

**筋道立てて考え表現するための
学び方をはっきり示します**

～主体的・対話的で深い学びの実現～



基本方針

2

**生活や学習の基盤となる
算数の礎をきっちり築き上げます**

～基礎的・基本的な力の確実な定着～



基本方針

3

**算数の楽しさやよさを
しっかり感じられるようにします**

～生活や学習への活用場面の充実～

① 内容に即した学び方と板書例をセットにした学習場面を設けています

- 「じぶんで みんなで」は、問題解決型の学習過程のポイントを、各ページの右側に具体的に示すことで「子どもによる主体的な算数の学び」を実現できるようにしています。このような場面では、数学的な表現を用いて筋道を立てて考えたり、伝え合ったりする問題解決型の学習の手順や着眼点とともに、めあてやまとめも示し、一連の学習活動として捉えられるようにしています。さらに、学習活動の展開が板書例としても見ることができるよう紙面構成にすることによって、指導者の授業づくりの参考となるようにしています。

「じぶんで みんなで」

4 まつぼっくりを やまとさんは 6こ、 めいさんは 7こ ひろいました。 あわせて なんこ ひろいましたか。

けいさんしやすい やりかたを かんがえて せつめいしよう。

めいさんは、8+7の けいさんを みぎのようにしました。 めいさんの けいさんの しかたを せつめいしよう。

6+7のような たしざんでは、 10の まとまりを つくって のこった かずを あわせると けいさんする ことが できます。

10の まとまりをつくるには、 6と7の どちらを わけて かんがえると いいかな。

10の まとまりをつくるために、 6と7の どちらを わけても こたえは おなじだね。

10の まとまりをつくるために、 6と7の どちらを わけても こたえは おなじだね。

10の まとまりをつくるために、 6と7の どちらを わけても こたえは おなじだね。

「じぶんで みんなで」(下 p.9~11)

② 数学的な思考力や表現力を育成するポイントを明示しています

- 数学的な見方・考え方を働かせ、見通しを立てたり、筋道立てて考えたり、考えたことを話し合ったりするための着眼点を「カギマーク」で示し、数学的な思考力や表現力の育成を図るようにしています。

1 かずがよくわかるように どのよう な まとまりを つくると かぞえやすいか かんがえよう。

(下 p.47)

③ 算数の学習の進め方とノートのかき方を例示しています

- 下巻巻頭には、問題解決型の学習過程を掲載した「さんすうの がくしゅうの すすめかた」を設けています。具体的な問題を用いた例を示すことによって、これからの算数の学習をどのように進めていけばよいのかがわかり、算数の学び方が身に付きます。
- 「さんすうノートをつくろう」では、子どものノートの記述例を示しています。考えた過程や学習のまとめ、振り返りなどのかき方を例示し、わかりやすく整理されたノート作りを通して、子どもたちの思考力や表現力が高まることが期待されます。

さんすう ノートをつくろう

ノートには、まえの がくしゅうを ふりかえる ことが できるように、 こたえだけでなく どのように かんがえたかも かきましよう。

めあて ▶ がくしゅうの めあてを かく。

かんがえ ▶ ずや しき、 ことばを つかっ て じぶんの かんがえを かく。

まなびあひら ▶ ともだちの よい かんがえや ほうほうを かく。

まとめ ▶ わかった ことや てきるよ うになっ た ことなどを かく。

ふりかえり ▶ じぶんや ともだちの かんがえの よかった ところや もっと しりたい ことを かく。

みんな おなじよ うに、 10の まとまりを つくったね。

ブロックで かんがえた ことを ずて ノートに かくと わすれにくい。

ともだちにつたえるために、 ていねいに かく。

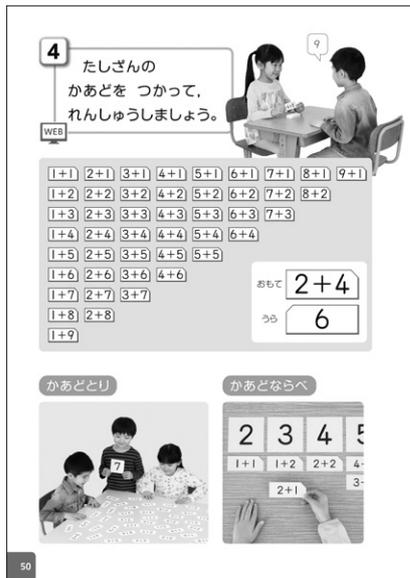
「さんすうノートをつくろう」(下 p.16~17)

① 新しい学習の前に既習内容を確認できるようにしています

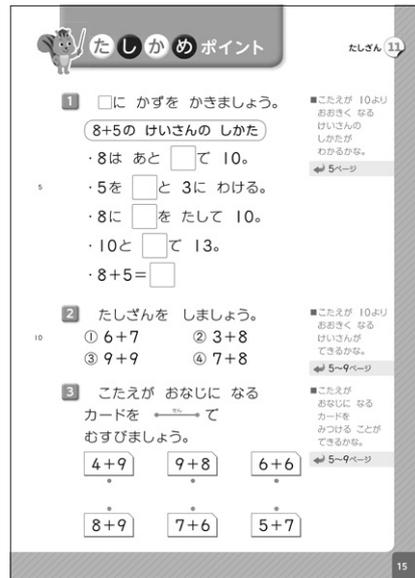
- 新しい単元に入る前に、これから学習する算数の内容のもとになる既習内容を確認する「つぎの がくしゅう の ために」を設けています。ここでは、算数の基礎的・基本的な知識や技能の習得だけでなく、学習の根底となる思考・判断・表現する力も確かめることができるようにしています。また、各問題には、どの学年のどの単元で学習した内容であるかを示しています。

② 学習した内容を整理し、習熟・定着へとつなげるようにしています。

- 練習問題だけではなく、ゲーム的な活動をふんだんに取り入れ、活動を通して楽しみながら学習し、習熟・定着へとつながるようにしています。
- 単元末の「たしかめポイント」では、単元で学習した算数の基礎的・基本的な内容を確認できるようにしています。各問題の右側には、ねらいやフィードバックの箇所も示しており、子どもが自分で振り返りながら、知識・技能の定着を図ることができるようになっています。



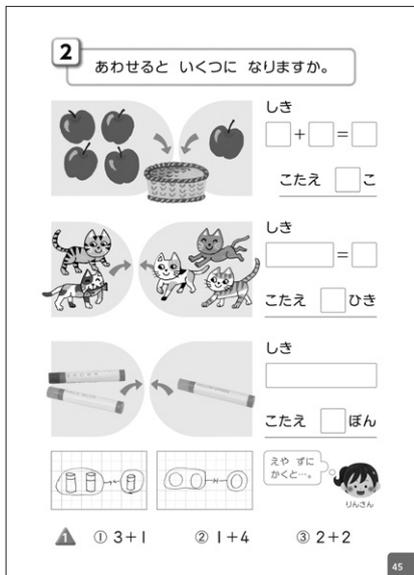
(上 p.50)



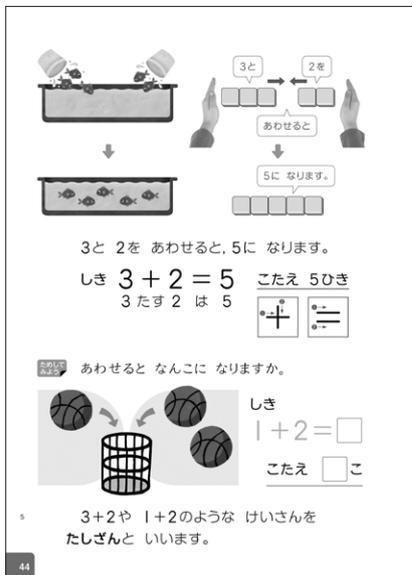
「たしかめポイント」(下 p.15)

③ 数学的な表現の扱いを大切にしています

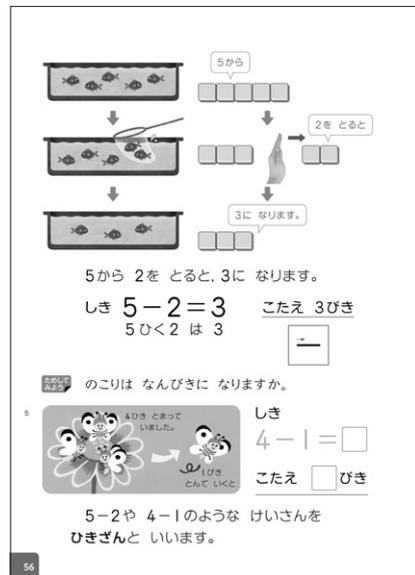
- 加法や減法の場面では、子どもが絵や図をかいて考えるような事例を掲載し、図を用いて表現と思考を結びつけることを大切にしています。
- 加法や減法を最初に学習する際には、絵や図、操作、ことば、式などの数学的な表現様式の相互関連を整理して取り上げ、基礎・基本の習得だけにとどまることなく、数学的な思考力・表現力をはぐくみ高められることも意図しています。



(上 p.45)



(上 p.44)



(上 p.56)

① 新しい学習に対する学習意欲を高めるようにしています

- 単元の導入「単元アプローチ」は、原則見開きで構成し、新しい学習への素地づくりを行えるようにしています。操作活動、既習内容の振り返りや関連付け、身の回りの観察など、算数の学習内容に応じた多様な活動を提示しています。それによって、単元での学習の課題を自ら見つけ、意欲的に新しい学習に入ることができるよう、数学的な問題発見・解決の過程を重視した構成にしています。



「単元アプローチ」(下 p.24～25)

② 学習したことの活用や関連付けを大切にしています

- 「ハロー-さんすう」では、より実感的に算数を学習することを通して、算数の楽しさやよさを感じられるようにするため、作業的・体験的な活動や学習したことを実際の場面に活用する活動の充実を図っています。ここでは、どのように活動を行うのかを具体的に示すとともに、手順や準備物を掲載して、活動への意欲を高め、進んで生活に活かそうとする態度が身に付くようにしています。
- 新設された「Dデータの活用」領域では、与えられたデータを表やグラフに表したり読み取ったりするだけでなく、身の回りの事象について、適切な表やグラフを用いて表現したり考察したりする活動も取り上げています。



「ハロー!さんすう」(上 p.88)

③ 学びの連続性に配慮しています。(保・幼・小連携)

- 巻頭「さんすうのはじまり」は、幼児期の終わりまでに育ててほしい姿との関連を考慮し、「子どもたちにとってなつかしい活動の中にも、これから学習する算数がかくれているんだよ。」「これからみんなで一緒に勉強していこうね。」という算数への期待を込め、幼児期の活動を写真で掲載しています。幼児期の活動と算数との関連性、連続性を示すことによって、子どもたちに小学校生活への安心感を与え、保・幼・小の接続が円滑になることを意図しています。



(上 口絵①)



(上 口絵④～⑤)

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻 頭	<ul style="list-style-type: none"> 「算数の学習の進め方」や「算数ノートをつくろう」では、算数の学習の仕方を知らせ、真理を求める学習態度が育てられるようにしています。(第1号, 第2号) 	下 p.2 下 p.16~17
本 編	<ul style="list-style-type: none"> 「かずを せいりしよう」では、他教科(生活科)と関連深い題材を取り上げ、幅広い知識が身に付くようにしています。(第1号) 「かたちあそび」では、他教科(図工)と関連深い題材を取り上げ、幅広い知識が身に付くようにしています。(第1号) 子どもの考えを表現する場面や活動する場面では、男女の平等に配慮し、男女区別のない役割を意識した場面を提示し、公平な立場で他者と接するようにしています。(第3号) 動植物に関する題材や、環境・防災教育につながる題材を通して、生命を尊ぶ精神や、環境保全・防災に寄与する態度が養えるようにしています。(第4号) 	上 p.71 下 p.18~19 上 p.50, 59 下 p.57 上 p.54, 68 下 p.5
自分でみんなで	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の過程において、自分の考えを表現したり、他者と協働して取り組んだり、数学的な妥当性を考察したりする場面を例示することにより、自他の敬愛と協力を重んじることを大切にしています。(第2号, 第3号) 	下 p.9~11 下 p.77~79
ハロ-算数	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを身の回りで活用する活動を取り上げ、算数と生活との関連が実感できるようにしています。(第2号) 	上 p.88 下 p.58
なるほど算数	<ul style="list-style-type: none"> 先人たちが培ってきた算数に対する努力にも関心が持てるような話題を掲載し、我が国の伝統・文化に親しみ、それを大切にする気持ちが持てるように配慮しています。(第5号) 	(3年以降)
巻 末	<ul style="list-style-type: none"> 「算数マイトライ」では、一人ひとりの児童の学習状況に幅広く柔軟に対応できるような題材を集め、児童の主体性を重視し、自主及び自律の精神が養えるように配慮しています。(第2号) 	(2年以降)

3. 上記以外に特に意を用いた点や特色

・特別支援教育への配慮

すべての児童が等しく学べるように、カラーバリアフリー、ユニバーサルデザインなどを採用しました。

- ① 文字の大きさと書体、罫線や囲みの使い方、色使いなど、レイアウトを工夫し、判読しやすくしています。
- ② 全ページにわたって文節改行を取り入れ、すべての児童が読みやすい紙面づくりをおこなっています。
- ③ 当該学年以上の漢字には、見開きごとにすべて振り仮名をつけています。

・道徳教育との関連

問題解決の場面では、自らの考えを発表し、他者の多様な考え方を尊重し、話し合いを通してよりよい考えをつくり上げていく展開を重視して、道徳性を養うことに配慮しています。

・ICTの活用

パソコンマークを付けた箇所では、デジタル教材を活用して学習を効果的に進められるように、弊社ホームページにコンテンツを用意しています。また、プログラミング教育については、「5年 正多角形と円」で取り上げています。

・伝統・文化への取り組み

我が国の国土や文化に対する理解を深められるような素材を多く取り上げています。

・防災教育との関連

防災への意識を高める題材を取り上げています。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

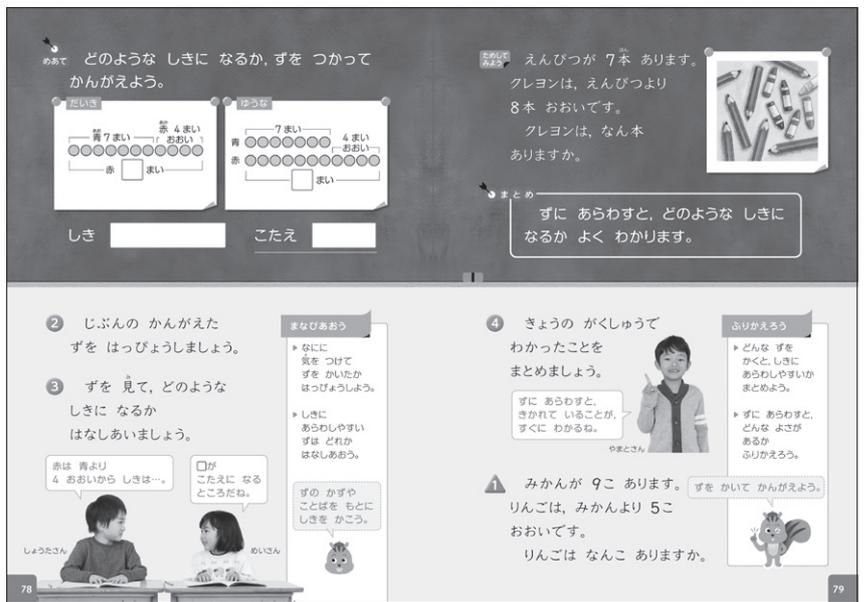
※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30 - 26	小学校	算 数	算 数	1 年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	算数 110 111	しょうがく さんすう 1ねん上 しょうがく さんすう 1ねん下		

1. 編集上特に意を用いた点や特色

特色 1 主体的・対話的で深い学びの実現

① 1時間の学習の展開をわかりやすく示しています

- 問題解決型の学習過程を側柱を用いて具体的に示した「じぶんでみんなで」を2箇所設定しています。これらの場面では、4段階に整理した問題解決型の学習の手順や着眼点をページの右側に具体的に示すことによって、子どもたちの主体的・対話的な学びを促し、深い学びへとつなげます。
- これらのページでは、指導者の授業づくりの参考となるように、1時間の学習の展開が板書例で見ることができるよう工夫しています。



(下 p.78~79)

② 算数をどのように学ぶかをていねいに示しています

- 下巻巻頭には、「さんすうの がくしゅうの すすめかた」(問題解決型の学習展開例), 「11 たしざん」の単元直後には、「さんすうノートをつくらう」(ノートのかき方)のページを設けています。
- 1年からこのようなページを提示することにより、子どもが常に算数の学び方を意識し、言語活動の充実へとつながります。
- また、これからの算数の学習をどのように考えて進めていけばよいのかを、イメージしやすくなることが期待されます。



「さんすうの がくしゅうの すすめかた」
(下 p.2)

問題解決の手順

- 1

どんな もんだいかな

🍎

● 問題の意味をつかむ めあてを持つ

- 2

かんがえよう

● 見通しを立てる
● 解決する

- 3

まなびあおう

🗨️

● 発表する ほかの問題でも
● 話し合う 使えるかためす

- 4

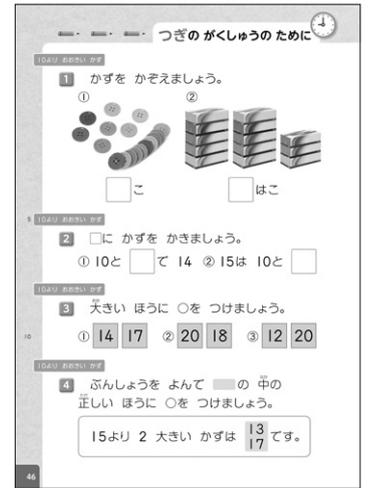
ふりかえろう

🍎

● 学習をふり返る 学習を
まとめる

① 既習内容を確認し、定着を図りながら学習を進めていくようにしています

- 新しい単元に入る前に、これから学習する内容のもとになる既習事項を確認する「つぎの がくしゅうの ために」を設けています。ここでは、算数の基礎的・基本的な知識や技能の習得だけでなく、学習の根底となる思考・判断・表現する力も確認することができるようにしています。また、各問題には、どの学年のどの単元で学習した内容であることを示し、算数の学習が既習の積み重ねであることを実感できるようにしています。
- 毎時間の学習では、数学的な見方・考え方を働かせ、見通しを立て既習内容との関連を意識して筋道を立てて考察する学習展開を重視しています。
- 本編の「直後の練習」では、十分な分量の問題を用意し、学習内容を確実に定着・習熟できるようにしています。また、「復習」「学年のまとめ」で既習内容を振り返る問題に取り組むことにより、学習したことの定着度の向上が図られるようにしています。



「つぎの がくしゅうの ために」
(下 p.46)

② 子どもが興味や関心を持って学習に取り組めるようにしています

- 身の回りの事象や子どもたちの実際の生活経験と関連がある場面を見つけ、それらに関わっていく活動を通じた学習を展開しています。また、場面や素材は、教科横断的な観点にも配慮しています。さらにこれらの取り扱いについては、関連させた教科の指導時期も意識した取り扱いとしています。



(下 p.14)



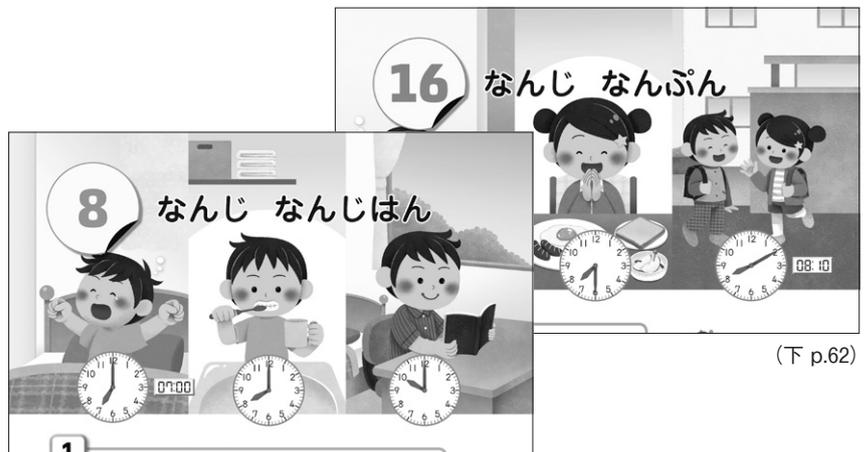
(上 p.87)



(下 p.19)

③ 子どもが苦手としている内容をていねいに取り扱っています

- 減法の求残と求差、時計の読みのような習熟に時間がかかると思われる内容は、分節や単元を分けるなど、段階的にていねいに取り扱うようにしています。また、繰り上がりのある加法と繰り下がりのある減法は、単元が連続しないように配慮しています。



(下 p.62)

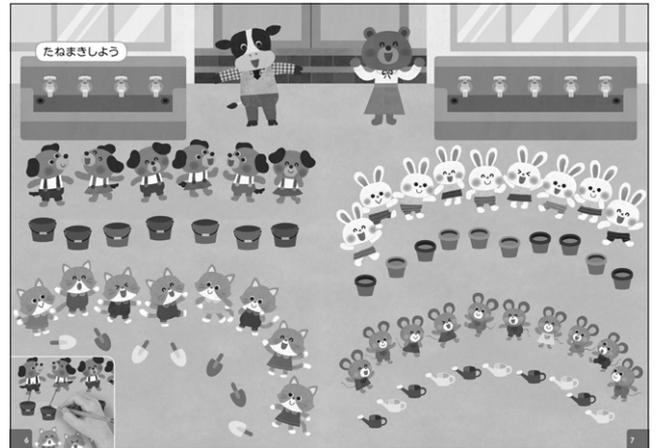
(上 p.84)

① 他教科等との関連を大切にしました構成にしています。

- 上巻巻頭「ともだち」「10までのかず」「なんばんめ」は、生活科を中心とした合科的・関連的な指導（スタートカリキュラム）との連携を視野に入れ、入学直後の学校での生活場面で構成しています。日常生活から算数の世界へと導く内容を、「小学校ってどんなところかな」「友だちできるかな」「楽しいといいな」といった子どもたちのわくわくする気持ちを大切に、ストーリー性を持たせた表現としています。また、子どもの身体的な負担に配慮し、1年の教科書を上・下2分冊の構成にして軽量化を図っています。



(上 p.2~3)

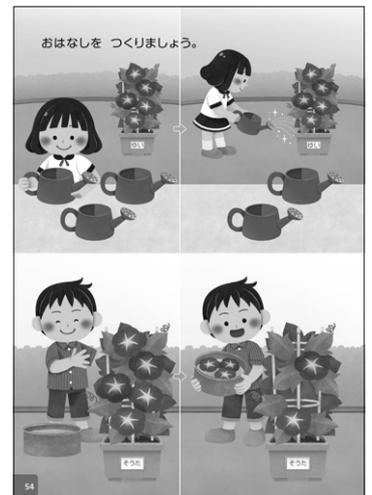


(上 p.6~7)

- 学校生活の場面は、夏休みまでの主要単元の導入部において継続し、他教科等における体験などの学習活動の経験（給食、アサガオの栽培など）との関連を図った学習を行うことができるようにしています。



(上 p.42)



(上 p.54)

② 学習したことを、日常生活や学習に活用すること大切にしています

- 「ハローさんすう」では、実感を伴って算数を学習することを通して、算数の価値や算数の学習の意義を感じられるようにするため、作業的・体験的な活動や学習したことを実際の場面に活用する活動の充実を図っています。
- 新設された「Dデータの活用」領域では、身の回りの事象にも注目させ、データを集めて絵グラフを用いて表現したり考察したりする活動に取り組みせ、統計的な問題解決のよさを感じ、生活や学習に活かそうとする態度を養えるようにしています。



「ハロー！さんすう」（下 p.58）



「データの活用」領域（上 p.71）

教科書の特色表

基本事項	教育基本法の遵守	<ul style="list-style-type: none"> 教育基本法第2条に示された教育の目標を達成するため、特に次の3点を柱に編修しています。 <ol style="list-style-type: none"> ①筋道立てて考え表現するための学び方をはっきり示す ②生活や学習の基盤となる算数の礎をきっちり築き上げる ③算数を学ぶことの楽しさやよさをしっかり感じさせる 	
	学習指導要領の遵守	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に示された算数科の目標達成を目指し、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を通じた学習となるようにしています。 	
	公正性	<ul style="list-style-type: none"> 教材や場面の選定、記述にあたっては、内容が一方的、断定的な見解に偏っていないか、広く受容されているかを十分吟味・検証しています。 	
	正確性	<ul style="list-style-type: none"> 検定基準などに照らして正確な内容であることを検証しています。 	
内容・系統	発達の段階への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 児童の発達の段階を考慮した内容とし、各学年の系統性や、6年間を通じた系統性に配慮しています。また、「保・幼・小・中」の連携にも配慮しています。 	
	配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭、本編、巻末の構成で内容を配列し、適宜関連コラムなどを配置しています。 各学年の配当時間の約9割で学習できる分量にしています。 他教科との関連を考慮した教科横断的な教材を取り上げています。 既習事項とのつながりがわかるような一覧性のある目次としています。 	
	学習意欲・主体的な学習態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭に学習の流れをわかりやすく示し、子どもの学習意欲の喚起と主体的な学びを促すようにしています。 子どもが興味・関心を持てるような素材を選定しています。 子どもと同じ立場の親しみやすいキャラクターの言葉が学ぶ意欲を高めます。 	
	多様な学習の実現	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容をもとに解決方法を考えたり、他者と考えを振り返り話し合ったりするなど、算数科の特質を生かした主体的・対話的で深い学びを行う場面を積極的に取り入れています。 	
	基礎基本	思考力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> 式や図、言葉などを関連付けて考え表現する活動を積極的に取り入れています。
		活用	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを日常生活や新しい学習に活かす場面を充実させています。
		現代的・社会的な課題への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 伝統文化、防災、国際理解など、ESDにも配慮した教材を取り上げています。
	その他	家庭学習への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 算数科の学び方や教科書の使い方については、保護者へのメッセージも掲載し、学校、家庭、地域の連携を促しています。 個に応じた取り扱いができる「算数マイトライ」は、家庭学習にも使用することができます。
取り扱い素材		<ul style="list-style-type: none"> 子どもにとって身近に感じられる素材を用いた問題を開発しています。 	
他教科との関連		<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育との関連を含め、他教科の学習内容との関連を図った素材を取り上げ、効果的な指導ができるようにしています。これにより、カリキュラムマネジメントに役立つことが期待されます。 	
特別支援教育への配慮		<ul style="list-style-type: none"> すべての児童が等しく学べるように、カラーバリアフリー、ユニバーサルデザインなどを採用し、特別支援教育について十分に配慮しています。 拡大教科書を制作します。 	
デジタル教材の活用		<ul style="list-style-type: none"> 別途デジタル教材やコンテンツを提供する体制を整え、学習効果を高められるように配慮しています。 	
判型		<ul style="list-style-type: none"> B5判を採用し、1～5年を分冊することにより教科書の軽量化に努め、児童の負担の軽減を図っています。 	
文字、印刷、製本		<ul style="list-style-type: none"> 当該学年以上の配当漢字には、見開き初出で振り仮名をつけています。 書体は児童に読みやすいように開発した教科書体を使用しています。 本文用紙は軽量化した再生紙とし、表紙は表面加工を施し、耐水性や堅牢性を考慮しています。 植物油インクを用いて印刷し、堅牢なあじろ綴じ製本で開きやすくしています。 	

2. 対照表

単 元	内 容	A								B				C				D		授業 時数				
		(1)				(2)				(1)				(1)		(1)								
		ア				イ	ア				イ	ア		イ	ア		イ	ア			イ			
		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ア	ア	イ	ウ	エ	ア	ア	イ	ウ	ア		ア	イ	ア	ア
	ともだち (上巻 p2~9)	○						○																3
1	10までの かず (上巻 p10~27)	○	○	○				○																9
2	なんばんめ (上巻 p28~31)		○					○						○										3
3	いくつと いくつ (上巻 p32~41)				○			○																7
4	あわせて いくつ ふえると いくつ (上巻 p42~53)								○	○	○		○											9
5	のこりは いくつ ちがいは いくつ (上巻 p54~66)								○	○	○		○											10
6	かずを せいりしよう (上巻 p68~71)																					○	○	2
7	10より おおきい かず (上巻 p74~83)		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○											8
8	なんじ なんじはん (上巻 p84~85)																				○	○		1
9	どちらが ながい (上巻 p86~90)															○	○	○						5
10	ふえたり へったり (上巻 p91~95)								○	○	○		○											4
11	たしざん (下巻 p4~17)								○	○	○		○											10
12	かたちあそび (下巻 p18~22)													○	○		○							5
13	ひきざん (下巻 p24~35)								○	○	○		○											10
	たすのかな ひくのかな (下巻 p36~37)								○	○	○		○											5
14	どちらが おおい どちらが ひろい (下巻 p38~43)															○	○	○						2
15	20より 大きい かず (下巻 p47~59)		○	○	○	○	○	○																11
16	なんじ なんぶん (下巻 p62~65)																				○	○		2
17	たしざんと ひきざん (下巻 p67~71)								○	○		○	○											4
18	ずを つかって かんがえよう (下巻 p73~81)								○	○			○											4
19	かたちづくり (下巻 p82~85)													○	○		○							4
20	おなじ かずずつ わけよう (下巻 p86~87)						○	○																2
	1年のまとめ (下巻 p89~92)																							4

(予備時間：12時間)

124

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30 - 26	小学校	算 数	算 数	1 年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	算数 110 111	しょうがく さんすう 1ねん上 しょうがく さんすう 1ねん下		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容や内容の取扱いに示す事項	ページ数
	なし			
合計				0

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容